

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790100640		
法人名	ウエルケア沖縄		
事業所名	グループホームめぐみ小禄南 2階		
所在地	沖縄県那覇市高良2丁目9-6		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 3月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

オープンして日が浅く、若い職員が多いため元気いっぱい。人生経験も浅いため入居者様、家族様に教えて頂くことが多いですが入居者様と精一杯、毎日を過ごしています。これから地域の方々と手を取り合って地域の顔となる施設を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

医療法人を母体とする事業所は、開所1年経過している。法人の理事長が訪問診療担当医師で、また同建物内には、看護多機能事業所が併設しており、365日24時間体制で、訪問看護ステーションによる健康管理や医療機関との連携もスムーズに行い、住み慣れた地域で安心した生活ができるよう努めている。毎月、理事長が訪問の際には、職員も直接話す機会があり、利用者の情報共有・法人の方向性など確認する機会となっている。コロナ禍に伴い、外出や面会など制限を余儀なくされているが、2か月に1回、ドライブ企画の実施や感染対策を徹底し、指定の場所での面会緩和など利用者の心的ストレスや不安の解消ケアに努めている。管理者は職員の育児を配慮し、仕事と家庭が両立できる職場の環境実現へ向け、法人へ働きかけ、勤務形態を調整するなど継続就業の支援に努め、働きやすい職場環境の整備を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアや勤怠届ファイルに、常に目に入るように張り出している。また、年に一度、会社が行うSQ試験にも取り入れられているため、常に意識できるようにしている。	法人で作成された理念は、勤怠届ファイルに張り出し、常に事業所が目指す支援のあり方を確認出来る様に努めている。理念に掲げている「その人らしい生活を想像し、創造していく介護」においては、利用者の趣味や自宅での習慣が継続できる様に意識し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でのオープンではあるが、ケアマネが中心となり、包括支援センターと連携して交流をすすめている。 また、散歩などで、近所の方と挨拶するなどできることから行うようにしている。	事業所周辺は住宅地で、散歩など外出時には挨拶がごく自然に行われている。また開所1周年記念では、馴染みの天ぷら屋の協力を得、関係を取り持ち、親交を深めている。また近隣の小学校とは、コロナが落ち着き次第、利用者が近くの横断歩道で挨拶運動の実行に向けて相談調整している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でまだ、地域の方々との交流はできていませんが、地域の子供たちを招いて認知症について、学びの場を作っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、行っている。コロナ禍で関係者がそろって行う事が難しいが、これから様々なツールを使って行っていきたい。	運営推進会議は、利用者、家族代表、行政、地域代表、知見者が構成員で、2か月に1回、開催している。現在、コロナ禍に伴い、事業所職員以外は書面郵送にて運営の取り組み状況を報告し、意見や評価を求めている。今後、ZOOM会議など構成員が対話できるような手段を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがあれば、随時、連絡し、教えていただくようにしている。これから、もっと施設にあしを運んでもらえるように取り組んでいきたい	市職員は運営推進会議の構成員で、事業所の運営状況の報告、助言のやり取りが行われている。管理者は疑問点など分からないことがあれば、積極的に電話や書面郵送で確認を取り合っている。また介護支援専門員も地域包括支援センターと情報交換や相談など活発に行い、地域づくりに向け構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在EVの施錠、非常階段につながる扉については安全面の観点から施錠しているが、閉じ込められているとかんじさせないように気を配り、入居者の行動制限にならないようにしている。また、転倒の危険がある入居者には、センサーマットを使用するなど、抑制しない介護を実践している。	身体的拘束等の適正化のための指針が整備され、運営推進会議後、身体拘束禁止委員会を開催している。管理者はオンライン研修を受け、日々の支援を確認し、課題解決へ向け取り組んでいる。今年度、職員に対しての研修が実施されていない。身体拘束に対する考え方や対策など共通の理解を持つ機会が望まれる。	介護職員その他の従業者に対し、定期的に身体的拘束等の適正化のための研修開催が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度等、職員同士で注意しあえる環境作りに取り組んでいる。また、法人が行う研修会の参加もこれから積極的に参加できるようにうながしていきたい。	虐待防止に向け、管理者は言葉遣いや不適切な場面に遭遇した際、個別に伝え注意喚起を図っている。今年度、職員に対しての研修が実施されていない。次年度に、法人本部の教育研修部とオンライン研修実施に向け準備を進めている。	高齢者虐待の理解や予防に向けての対応など学ぶ機会、研修開催が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修に参加できておらず、十分に理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者とケアマネージャーと一緒に説明し、利用者や家族の質問や疑問に十分に答えられるように努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と管理者、ケアマネは常に、連絡を密にとっており、話しやすい体制を整えている。また、要望などあった際はサービスに反映している。	コロナ禍に伴い、利用者、家族ともに面会に関する要望が多くあがっている。そこで感染防止対策を徹底し、予約制で、指定の場所での面会緩和を実施している。またドライブ企画の場所に家族が訪れ、顔を合わせた利用者もいた。普段、不安にならない様に、LINEなどのツールで、状態や活動の動画を送信し、情報発信に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、管理者との面談を行っており、また、それ以外にもいつでも話ができるように努めている。	管理者は半年に1回の面談以外にも、日頃より職員が相談しやすい雰囲気作りに配慮し、意見を取り入れる様に努めている。利用者の剥離や内出血防止にベッドサイドレールにカバーを取り付けたり、プライバシー保護や季節感を楽しめるようにカーテン購入などの物品管理を任せるなど職員の要望に対し、反映できるように取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の家庭環境にも目を配り、できる限り希望に添える勤務表を作成している。また、やりがいなど持てるように、会社内研修制度をつかって知識の向上に努めてまいりたい	法人で労働条件が規定された就業規則が整備され、有給休暇の取得や健康診断を年1回、定期的に夜勤を担う職員は年2回実施している。管理者は男性職員の育児を配慮し、仕事と家庭が両立できる職場の環境実現へ向け、法人へ働きかけ、勤務形態を調整するなど継続就業の支援に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が、広島県内で行われることが多いため沖縄エリアでも行えるように体制づくりをしている途中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で困難ではあるが、まず管理者からオンラインではあるが研修会に参加するようにしている。これからもっと集合研修に参加していきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との信頼関係を築けるようにコミュニケーションをとり、不安が少しでも薄れていくように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、ケアマネージャーや管理者が入居予定の家族や本人の話をしっかりと伺って、入居につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHがどのような場所かの理解も含め、どのような支援が必要かまたはできるか、ケアマネを中心として話し合えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にできるだけお手伝いをしてもらえるように心がけています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに入居者の誕生会を開催しています。(面会できる環境時のみ)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お電話をいただいたり、お手紙をいただいたりして、直接あえなくてもつながりがたえないように支援している。	コロナ禍に伴い、直接、交流の機会はないが、友人からの電話や手紙を通して、関係を継続している。またドライブ企画で、道すがら行きつけの場所を通るなど大切にしてきた馴染みの場所との関係性が途切れない様に工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別対応がどうしても増える環境下ではあるが、入居者の関係性や性格を考慮して交流ができるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中から家族との関係を大切にしているのでサービスが終了しても連絡を取れるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者とコミュニケーションをとり、自分の思いが伝えられない方のちょっとしたヒントに気づくことができるように努めている	日常会話の中で直接、利用者の思いを汲み取り実践できるように努めている。意思を伝えることが難しい方は、表情や行動から推察したり、家族から情報を得、その方が望む暮らしが出来る様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他業者から引き継ぐ際も、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご利用者の理解を深めるようにつとめています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務開始する際は、直接、他職員より情報収集し、また記録を確認して業務を開始している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーが、中心となり気になってところはその都度、職員、管理者、ケアマネが参加しプチミーティングを行い、介護計画に反映できる体制を作っている	管理者が利用者1人に対し、2~3名の居室担当者を割り振りし、介護支援専門員が作成した独自のモニタリングシートを活用し、毎月、担当職員が計画に沿って、評価を実施している。状態変化や変更時に計画を見直し、現状に即した支援に向け取り組んでいる。日々の介護記録において、今後、効率化を図る為、アプリの活用を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方について、もうすぐ変更するため、そこを機会に勉強会を実地する予定		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で家族も買い物のままならず、買い物の代行や病院受診の付き添いなど、家族に提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	R2.12月にクリスマス会を行った際にボランティアで演舞を披露して頂いたが、今は難しい。将来的には、地域の子供たちと出来ることを考えていきたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、訪問診療のほか、月2回の訪問看護師の健康チェックを受けており、常にしっかりと連携をとっている。	利用者は、全員入居時にかかりつけ医を変更し、事業所協力医である訪問診療医を受診している。事業所の本体法人の理事長が訪問診療担当医師であり、利用者は、毎月の訪問を楽しみにしている。職員も訪問診療日に直接話す機会があり、利用者の情報共有・法人の方向性を確認する機会となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の変化や気づきを随時、ラインワークスや電話にて報告、指示を仰ぐ体制を整えている。また、訪問看護師から、報告の仕方や処置の方法など、少しずつ研修会をひらいて共通認識になるように努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が、入院になった際には、病院の地域連携室と連絡を密にとるようにしています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にもご家族と終末ケアについて話し、いざ、近づいてきた際は再び、聞くようにし、家族間でも話し合うように促している。また、関係する全員で話し合いを持つ機会を作るように心がけている	法人としての看取りに向けた指針が策定されており、事業所は、方針に則った支援をおこなっている。開所間もないため対象者は、まだいない。法人の主催する看取り研修に参加し、学びを深め職員間で共有する予定である。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡については、確立しており、うまく活用できている。 具体的な、応急処置は、訪問看護師の指示を仰いでいる	法人作成のマニュアルが整備されており、管理者はオンラインで「緊急時の対応」についての研修を受講した。利用者の急変時には、訪問看護師からの指示を得て、適切に対応することができた。今後は、法人内の訪問看護事業所や看護小規模多機能事業所に協力を仰ぎ、応急対応の訓練を実施する計画である。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	火災報知器の使い方や、災害時の避難誘導など、同一建物にある事業所とともに、これから行っていく予定。 また、感染対策については、同一建物にある事業所とともに密に連携をとりあって、対策をおこなっていく	地域交流室に備蓄庫を設け、必要な物品を備蓄している。備蓄庫にはラベルを貼り、物品表が配置されている。訓練については、夜間想定で2回の実施を確認した。感染症については、オンラインでの法人研修を受講し、資料を回覧し情報共有を実施した。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は大切なことと認識しており、カーテンを閉める等、気を付けるようにしている。	トイレの前、出入り口等にはカーテンを設置している。トイレの介助時は、カーテンを引いてプライバシーの保護を意識している。利用者の半数は車いすを利用しており、排泄や入浴介助時、特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションは、しっかりとております。自分で決めることが出来ない方にも選択肢をいくつか設けて、選んでいただけるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思が伝えにくい入居者が多いため、常に声掛け、気配りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前に座ってもらい、身なりを整える支援をしている		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託食材を使用している。ひと手間かけるものに関しては、入居者にレシピをきいたり、一緒に作ることもある。	朝・昼は、料理を温めて提供している。夕食については、一品は食材から調理をして提供している。ご飯は、事業所内で炊飯することにより、五感を刺激することを意識している。食材提供事業者は、全国統一のメニューを提供している。調理するメニューについては、できる限り地域の食材や料理を提供する工夫を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは、しっかりおこなっている。必要が、ある入居者に関しては、トロミをつかったり、栄養ゼリーも準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、月に2度は、歯科衛生士によるチェックも行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態にあったトイレ誘導、おむつ交換を行っている。	利用者の内8名は、リハビリパンツを使用している。1名はポータブルトイレを使用している。それぞれの排泄パターンを把握し、声かけ誘導を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや、水分補給など、豆乳やオリゴ糖など、一人一人にあったものを、飲んで頂く工夫をしている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の目安はあるものの、本人に確認し臨機応変に対応している。	基本的に週2回以上の入浴を目標としている。入浴拒否のある利用者に対しては、ご本人の意向を確認しながら、無理強いをしない介助を行っている。浴室は、奥まった個所にあり、脱衣室は適切な広さを確保している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅から使い慣れた家具や備品に囲まれた居室にて、ゆったりとした気持ちになれる環境を作るとともに、安心していただけるようにこえかけをしている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の管理は、薬剤師とともにおこなっている。また、薬情もすぐに確認できるようにファイルにて管理している。	業務委託を行っている薬局が、定期的に薬を届ける際に、個々の利用者についてセットを行っている。服薬手順についてマニュアルを作成し、職員間で共有している。6月に貼薬の誤薬があった。その経緯について再検証し、誤薬の事故を防ぐ取り組みが望まれる。	誤薬事故について、事故報告書をもとに再検証し、事故防止のための話し合いを行い、マニュアルの見直しや共有方法の見直し等の事故防止対策の策定が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	孤立しがちな入居者が、他入居者の輪に入りやすいように職員が間を取り持ち、会話できるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出する機会が少ないが、状況が許すときは、ドライブなどにでかけるようにしたり、外出先で、家族と待ち合わせて、家族とのひとときを過ごせるよう援助している。	ドライブについては、2か月に1回を目標に実施している。孫の結婚式に出席したいという利用者と家族の意向を受けて、職員で環境整備を行うことにより、実現した。コロナ感染予防対策期間中もできる範囲で、外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋さんや、移動スーパーにて買い物を一緒にできるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があったり、家族からの依頼があった際は、やりとりができるように支援している。また、ビデオ通話ができるように家族に依頼することもあります。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、四季折々の壁面をかざりつけ、季節感をだすようにしています。	3階建ての建物の2階に位置しているため、日常的に外気に触れる時間が少ないため、共有空間に季節感を演出する工夫を行っている。春に向かい、職員が手作りしたチューリップ等で壁面を飾っている。設置しているカーテンも季節感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者が一緒にご飯をたべたり、ひとときを過ごせるような座席配置を工夫している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、写真に囲まれた落ち着いた空間づくりを、家族とともに作る工夫をしている。	居室には、ベッド・エアコン・カーテンが備えられている。収納家具については、利用者が自宅で使用していた物を持参している。これまでに、ドレッサーを持参したり、本好きの利用者はたくさんの蔵書を持参し、居室に本棚を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今、できることを続けられるように風呂場での滑らない工夫や、手すりをしっかり持つように声掛けするようにしている		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6 (5)	身体拘束等、職員に対しての研修実施が不十分で、身体拘束に対する考え方や対策等共通認識が乏しい。	適正に持続的に研修会が行えるように環境整備する。	①研修担当職員を決定 ②教育研修部とともにコロナ禍においてもグループ内格差がないように密に連携をとっていく。	6ヶ月
2	7 (6)	高齢者虐待の理解や予防に向けて学ぶ機会が与えられていない。	適正に持続的に研修会が行えるように環境整備する。	①研修担当職員を決定 ②教育研修部とともにコロナ禍においてもグループ内格差がないように密に連携をとっていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。